

いいお手本を見つけて 参考にしよう

ハム子さんとハム夫さんは、とりあえずハム吉さんに手伝ってもらって最初のQSOをすませました。でも、まだ一回のQSOをどのように進めたらいいのかわかりません。では、その基本から。

*

アマチュア無線のQSOをどのようにしたらいいかを知るには、実際に行われているQSOを聞いてみるのが確実に早道です。QSOの仕方はHFとV/UHF、あるいはSSBとFMではちょっと違うところもありますが、これらの交信の様子を実際に聞いてみれば、その違いを知ることもできます。

ただし、実際のQSOをお手本にする場合、いいお手本の場合とそうでない場合もあります。その判断するには多くのQSOを聞いてみてそれらを比較をしてみるのですが、基本的には社会常識に照らして判断すれば、そんなに間違いはありません。

*

アマチュア無線のQSOは、普通の電話でのおしゃべりのような同時通話ではなく、相手局がトランシーバーを送信状態にしてお話しをしている間は、こちらはその話を聞き、相手が送信を終わったら、今度はこちらが送信して、おしゃべりをはじめるというように、交互に送受信を繰り返しながら交信をしていきます。そして、呼び出しから終了まで、一回のQSOではこのやりとりが数回繰り返されます。

ですからQSOをはじめた場合、受信するほうはただ聞いていればいいので問題はありますが、気になるのは送信のほうです。

それではここで、ハム子さんとハム夫さんのQSOでハム子さんの送信

Keyword



HF, V/UHF, SSB, FM, 同時通話, PTT スイッチ

を例にして、送信のたびにやるべき基本的なことをお話ししてみましょう。その基本は、マイクのPTTスイッチを押したら、最初に相手のコールサインを、つぎに自分のコールサインを言ってから話をはじめます。実際には、

『JA1AYO こちらはJM1WLE 了解しました。』

そして会話に入ります。一方的にお話しをするのですから、あまり長くないように、適当に話をまとめ、送信を終わるときには、

『JA1AYO こちらはJM1WLE どうぞ』

と言って、送信を終了します(PTTスイッチを離します)。

今度は相手が話す番です。相手が話している間はこちらはその話を聞いているわけです。このように送信の最初と最後に自局のコールサインと相手局のコールサインを言うことが必要です。QSOに慣れるまで、しばらくの間はこれを実践してみてください。

